令和５年度学校評価計画書（最終報告）

学校名（宮内小学校）

評価計画					自己評価					学校運営協議会 委員評価コメント	改善方策
中期経営目標 （めざす児童生徒像）	短期経営目標 （めざす児童生徒像）	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成度	評価	結果と課題の分析		
全ての児童に個別最適な学びを日常的に提供する （自分の学びを作り出し，力をつける子）	自校の教育活動の目標と指導内容と評価を一体化させる	・PBS の考え方，個別最適な学びの実践に向けて計画的に研修を進める。 ・自由進度学習を実施する。 ・特別支援教育の考え方を学級経営に生かす。	・全児童が自由進度学習を体験する。 【校区共通項目】 ・授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいると捉える児童生徒の割合（全国児童生徒質問紙） 【市共通項目】 ・学びが楽しいと捉える児童の割合（アンケート）	100% 80% 95%	93% 87% 88%	100% 89% 91%	100% 111% 96%	A A B	・児童の実態を把握し，スモールステップで課題や目標を設定した自由進度学習に取り組んだ。特に，学びに向かいにくい児童については実態に基づく課題や環境の設定を工夫した。多様な選択肢を提供することで自己決定し，学びに向かう児童が増えた。また，ICT を活用して，課題の提供や提出，児童の考え方の共有を効率的に行ったことで，一人一人が学びに向かう時間を確保できた。 ・特別支援教育の考え方を生かして課題に向かいにくい児童へ支援を行ったことで，他の児童にとっても学びの選択肢が増え，自分で学習を調整しながら進められた児童が増えた。	・授業改善に向けて，１時間の授業の分析（よい点，課題となる点）をするとよい。将来に向けて，国語力をしっかりつけてほしい。国語力は国語の時間だけいでなく，どの教科でもつけることができる。 ・確かな学力を育てるために，基礎学力の定着と児童の学習満足度の向上を図るとよい。 ・短期経営目標や方策が抽象的なため，成果と課題が見えにくい。 ・インクルーシブ教育が今後進んでいくと思われる。授業の形態も新しいものに変わっていくだろう。自分で考えて自分で決めるという取組は，これからの児童に必要な力なのでしっかりつけていってもらいたい。 ・評価をする際には，評価方法を明示し，指標では，具体的な指標基準を示すとよい。	・個別最適な学びの推進に向けて，学年に応じた学び方を系統的に考えること，振り返りの視点を共通認識していくことに取り組み，全ての児童に個別最適な学びを日常的に提供できるようにしていく。 ・指導と評価の一体化について，指導者や児童が教育活動の目的について理解が進むよう，職員研修等で対話を重ねていく。
つながり支援プロジェクトを日常化する （自分らしさを伸ばし合える子）	・PBS の考え方を具体的な場面でどう実践するか共有する。	・PBS の日常的な実践 ・全校で行う「良いところ見つけ」で全員を紹介する。	・自分にはよいところがあると捉える児童の割合。（アンケート） 【校区共通項目】 ・先生や友達にいつでも相談できると捉える児童の割合。（アンケート）	90% 90%	87% 85%	82% 84%	91% 94%	B B	・２学期に引き続き，縦割り班掃除，学校行事，あいさつ運動等，様々な場面で意図的に異学年交流を行う中で，PBS（ポジティブ行動支援）の考え方を踏まえて「良いところみつけ」に全校で取り組んだ。全校児童について良さを紹介することができた。学年実態に応じて，個々が自分の役割を果たすこと，その言動について評価されることで自分のよさに気付く児童が増えている。	豊かな心を育てるため，自己有用感と共に道徳授業を通して，道徳的心情・態度の育成を図るとよい。 ・児童の学習環境（教室の整理整頓や整然とした靴箱等）が整っている。多くの児童が落ち着いて学習できている。継続するとよい。 ・校内外で出会った時にあいさつができる児童が多い。 ・スクールサポーターや補導協助員といった外部の方と連携して児童を見守っていた。 ・小中連携を密にして，中学校へ円滑な移行できるようにするのが望ましい。	・特別活動の内容を見直し，児童会や委員会活動など児童が主体的に活躍できる仕組みづくりをする。 ・引き続き，スモールステップで目標を設定し，それを達成することで「できた」を積み重ねることに価値を見出せるよう働きかけ（放送や掲示等）ていく。 ・自分のよさを見つけにくい児童が活躍できる場を意図的に作る，個に応じた声かけをするなど，自己有用感を感じにくい

											児童へのアプローチを継続して行っていく。
職員の充実感を高め，時間外勤務時間を下げる。	◎分掌の見なおしと業務の平準化を進める。	・企画委員会で業務改善の議題を挙げ，各部でも検討を進める。 ・全職員が業績評価の重点目標の一つに位置付け対話を重ねる。	・業務改善が進んでいると捉える職員の割合（アンケート） ・1 月末時点で月時間外勤務 45 時間以内の月が 9 か月以上の職員割合 85%以上	100% 100%	67% 75%	74% 83%	74% 83%	C B	・企画委員会や学年主任会で，見通しをもって業務を遂行できるよう 2 か月先を見越した提案を行うようにした。専門部や学年部で効率的に業務を遂行すること意識しながら取り組んだが，組織的な動きが十分ではない。 ・退校時刻 18 時 30 分に設定し実践したこと，在校時間の個票を配付し勤務開始前・放課後の時間の割振りについて見直しを行ったことで，時間外勤務が縮減した。	・個別最適な学びはとてもすばらしい取組だと思うが，授業準備等大変だと感じる。時間外勤務時間は減少しているのかもしれないが，持ち帰りなどで対応しているのではないか。カリキュラムが変わらないと業務改善は難しいのではないか。教員が授業準備をしたり，児童を向き合う時間を確保したりするには，人員の配置が急務ではないか（学校だけの問題ではないのではないか）。 ・信頼される学校をめざし，学校に対する保護者の理解や満足度をと高めるとともに，教職員の健康で協働的な職場づくりに努めるとよい。	・分掌の内容を整理・精選し，担当の再編成を行い，分担する業務内容の平準化を図ことで，時間を捻出し，月時間外勤務 45 時間以内で業務遂行を目指していく。

○　短期経営目標のうち、本年度の重点目標については、◎印で示し、◎印は全体を通して３項目以内とする。

【自己評価】

「達成度」＝　報告期の達成値／目標値

「評価」目標値に達する評価の度合い

（A・・１００%、B・・８０%、C・・６０%以上、D・・６０%未満）